

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立あけぼの学園高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○「強く明るく真心で」を校訓とし、あけぼの学園高校の生徒として一人ひとりが“自信と誇り”を持ち、地域に貢献し地域から信頼される学校	
(2)	育みたい生徒像	○学びに向かう力を育み、成果をあげる体験を重ねることで自己肯定感・自己有用感を高め、新しい時代を生き抜く力を持っている。 ○制服をきちんと着こなし、ピアス等の装飾品は身につけず、頭髪も含め高校生としてふさわしい身だしなみを整えている。 ○他の生徒の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ共通の課題に対し協力して取り組んでいる。 ○地域の一員として積極的に活動することで、地域から信頼を得ている。
	ありたい教職員像	○目指す学校像の実現に向け、「チームあけぼの」の一員として自校の存在価値を高めている。 ○授業を大切にして学力向上を図るとともに、生徒の小さな成長の積み重ねに力を注ぎ、その成長を目にすることを自らの喜びとし、自らも成長しようとしている。 ○生徒及び教職員相互の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ学校の抱える課題に協働して取り組んでいる。 ○様々な形で積極的に地域と連携・貢献し、地域とともにより魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活</p> <p><保護者> ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上、進路実現</p> <p><中学校> ○中学校に対する理解、多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現</p> <p><地域社会> ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校の情報提供、地域の担い手育成</p> <p>○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現</p> <p><中学校> 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供</p> <p><地域社会> 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供、開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上</p>	<p><保護者> 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言</p> <p><中学校> 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養 基礎学力の定着 目的意識の向上</p> <p><地域社会> 地域の子もたちが本校への入学を希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○伊賀高校からの校訓である「強く明るく真心で」の精神を高校3年間で身につけるようにしてもらいたい。</p> <p>○中学校や地域等への広報活動を積極的に行うとともに、生徒たちの学んだことを生かした地域交流を重ね、生徒たちの自己肯定感や地域からの学校評価の向上に取り組んでももらいたい。</p>
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○伊賀地区の中学校卒業者が減少している中で、選択科目の充実や生徒個々への丁寧な指導などにより、募集定員を満たしている。今後とも小・中学校や地域との連携をより進めることで、魅力ある学校づくりに取り組むことが必要である。</p> <p>○基礎学力が十分に定着していない生徒や様々な課題をかかえる生徒もいる。そこで、学習指導や評価の方法を工夫するとともに、特別な支援や配慮をし、生徒に社会で生き抜く力を身につけさせることが必要である。</p> <p>○生徒指導上の違反を繰り返す生徒も一部いるが、根気強い指導を継続している。その際、普段から全職員の意識と指導を統一していくことが必要である。</p>
	学校運営等	<p>○小・中学校、地域の方々との連携を通して、生徒の達成感や自己肯定感の向上が感じられる。今後も生徒の成長を柱に地域連携・地域貢献の取組を推進し、学校活性化につなげるとともに、地域の活性化にも寄与していくことが必要である。</p> <p>○教職員が健康で意欲を持って日々生徒の指導に取り組めるよう、ワークライフバランスに留意し過重労働の防止やさらなるチームワーク向上を図っていくことなどが、小規模校である本校には必要である。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	○生徒に基本的な生活習慣の確立や部活動・資格取得等への積極的なチャレンジを促し、基礎学力やコミュニケーション能力・体力を向上させ、生徒一人ひとりの希望進路実現を図る。
学校運営等	<p>○情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。</p> <p>○学校行事・会議・部活動等の精選や見直しも含め総勤務時間の縮減を図り、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるよう努める。具体的には、定時退校日の月あたり一日の設定、会議スマートルールに沿った会議時間の縮減に努める。</p> <p>○部活動の休養日を週あたり一日設定するとともに、練習時間を平日三時間以内・休日四時間以内とする。</p>

4 本年度の行動計画と評価

- (1) 教育活動 … 教育活動に関する項目は、生徒を対象としたものとするのが望ましい。
(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力 ・コミュ ニケーシ ョン能力 ・体力の 向上	<p>生徒の実態に即した学習指導を工夫し、基礎学力を定着させる。</p> <p>【活動指標】 授業公開及びテスト前補習を各2回以上実施する。</p>	<p>①第1回授業公開(5/7~5/12)</p> <p>授業参観者数 15名(昨年度9名) 参観シート提出 13名(昨年度8名) 14枚(昨年度12枚)</p> <p>②第1回テスト前補習(9/6~9/12)</p> <p>実施科目 5科目(昨年度6科目) 対象生徒 のべ29名+自由参加 (昨年度はのべ42名+自由参加)</p>	

	<p>【成果指標】 レッドカードの件数が 昨年度より減少する。 ※「成績不振者報告書」とし て、以下の2種類のカードを 使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レッドカード … 不認定・未履修 ・イエローカード … 欠課5分の1超・成績不振 	<p>③第2回授業公開（10/9～10/19） 授業参観者数 6名（昨年度13名） 参観シート提出 4名（昨年度8名） 4枚（昨年度9枚）</p> <p>④第2回テスト前補習（2/22～2/27に実施予定）</p> <p>○レッドカードの件数 H30年度 前期末レッドカード 1年次生 0名（0枚） 2年次生 8名（16枚） 3年次生 4名（5枚）</p> <p>〈参考〉 H29年度 前期末レッドカード 1年次生 2名（2枚） 2年次生 4名（4枚） 3年次生 1名（1枚）</p> <p>※後期末は成績報告締切前のため不明</p> <p>○イエローカードの件数 H30年度 9/16現在 1年次生 17名（28枚） 2年次生 59名（158枚） 3年次生 19名（69枚）</p> <p>〈参考〉 H29年度 前期末イエローカード 1年次生 68名（152枚） 2年次生 61名（153枚） 3年次生 20名（37枚）</p> <p>今年度は職員室前に学習コーナーを新設した ところ、長期休業や放課後に自主学習をしてい る生徒が増加している。</p>	
生徒指導 の充実	<p>「そとみ」の指導に取り 組む。</p> <p>【活動指標】 頭髪服装指導を行い、規 律に則った学校生活を励行 させる。</p> <p>【成果指標】 違反総数が昨年度より下 回る。</p>	<p>○頭髪服装違反件数 12月末現在 合計365件 （内訳）1年次生 102件 2年次生 122件 3年次生 141件</p> <p>〈参考〉昨年度同時期 合計610件 （内訳）1年次生 135件 2年次生 175件 3年次生 300件</p> <p>昨年度に比べ違反件数が大幅に減っており （前年度比60%）、成果指標は達成できている。</p>	

<p>資格取得 ・部活動 の推奨</p>	<p>(1) 生徒自身が学ぶ姿勢を身につけ、積極的に資格取得に挑戦するよう働きかける。</p>	<p>(1) 《1年次》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実用英語技能検定 <ul style="list-style-type: none"> 準1級 3名受検 → (合否未定) 3級 1名受検 → (合否未定) ・ 日本漢字能力検定 <ul style="list-style-type: none"> 3級 9名受検 → (合否未定) 4級 12名受検 → (合否未定) 5級 39名受検 → (合否未定) 6級 17名受検 → (合否未定) ・ ビジネス文書実務検定 <ul style="list-style-type: none"> 2級 4名受験 → 0名合格、3名部門合格 3級 20名受験 → 4名合格、12名部門合格 4級 86名受験 → 42名合格、22名部門合格 <p>○各種検定合格生徒 計83名見込み(6名増)</p> <p>日本漢字能力検定、ビジネス文書実務検定は全員受検した。より上の級を目指し合格できるように働きかけた。</p> <p>《2年次》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実用英語技能検定 <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 3級 3名受験 → 2名合格 【第3回】 準2級 1名受検 → (合否は3月) 3級 3名受検 → (合否は3月) ・ 毛筆書写技能検定 <ul style="list-style-type: none"> 3級 1名受検 → 1名合格 ・ ビジネス文書実務検定 <ul style="list-style-type: none"> 1級 3名受験 → 0名合格 2級 12名受験 → 4名合格、3名部門合格 3級 11名受験 → 5名合格、2名部門合格 ・ 情報処理検定 <ul style="list-style-type: none"> 2級 13名受験 → 0名合格 3級 22名受験 → 8名合格 ・ 簿記実務検定 <ul style="list-style-type: none"> 3級 1名受験 → 0名合格 ・ 食物調理技術検定 <ul style="list-style-type: none"> 3級 11名受検 → 11名合格 4級 14名受検 → 11名合格 ・ 被服製作技術検定 <ul style="list-style-type: none"> 3級 4名受検 → 3名合格 4級 4名受検 → 4名合格 <p>○各種検定合格生徒 計54名見込み(9名減)</p>	
------------------------------	---	--	--

	<p>(2) 部活動に参加するように積極的に働きかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤十字救急法救急員 1名認定 授業に関係する検定の受検者が大半であり、授業とは別の検定にチャレンジする生徒がほとんどいないのが現状である。次年度の就職・進学に向けて、様々な検定へのチャレンジを勧めた。 《3年次》 ・ 実用英語技能検定 <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 2級 1名受検→0名合格 準2級 1名受検→1名合格 3級 3名受検→1名合格 【第3回】 2級 2名受検→（合否は3月） ・ 硬筆書写技能検定 <ul style="list-style-type: none"> 準2級 2名受検 → 0名合格 ・ ビジネス文書実務検定 <ul style="list-style-type: none"> 1級 10名受検→0名合格、3名部門合格 2級 24名受検→10名合格、4名部門合格 3級 21名受検→7名合格、12名部門合格 4級 1名受検→0名合格、1名部門合格 ・ 情報処理検定 <ul style="list-style-type: none"> 1級 3名受検 → 0名合格 2級 7名受検 → 1名合格 3級 12名受検 → 2名合格 ・ 簿記実務検定 <ul style="list-style-type: none"> 3級 4名受検 → 2名合格 ・ 珠算・電卓実務検定 <ul style="list-style-type: none"> 3級 4名受検 →1名合格、2名部門合格 ・ 食物調理技術検定 <ul style="list-style-type: none"> 2級 2名受検 → 2名合格 ・ 被服製作技術検定 <ul style="list-style-type: none"> 2級 7名受検 → 4名合格 ○各種検定合格生徒 計53名見込み（30名増） ・ 赤十字救急法救急員 3名認定 資格取得に関しては、合格ということが自信や自己PRにつながるため、何か1つでも取得できるように勧めた。 (2) 《1年次》 ・ 部活動加入者 76名
--	--------------------------------------	--

	<p>【活動指標】 SHR、LHR、進路行事等を通して、資格取得や部活動について、案内やガイダンスを行う。</p> <p>【成果指標】 資格試験、検定等の受検者や部活動に参加している生徒数が昨年度を上回る。</p>	<p>ビューティクリエイト部 約 30 名 運動部 約 20 名 製菓製パン部 13 名</p> <p>《2年次》 ・部活動加入者 53 名</p> <p>《3年次》 ・部活動加入者 61 名（4名増）</p> <p>各年次生とも、大半がビューティクリエイト部であり、運動部は少ない。</p> <p>人数不足の部活動は他校との合同チームを結成し、大会に向けて努力している。また、文化部や大会がなくても、所属している生徒は、それぞれの課題や楽しみに向かって、熱心に活動している。</p>	
<p>キャリア教育の充実</p>	<p>すべての生徒が進路を決定して卒業することを目指す。</p> <p>【活動指標】 生徒の希望を把握して、就職または進学に向けて指導する。</p> <p>【成果指標】 すべての生徒が進路を決定して卒業する。</p>	<p>学校紹介を希望する生徒の就職内定 100%。</p> <p>・就職内定 66 名 ・進学内定 7 名 ・進学準備(通信制推薦) 1 名 ・芸能研修生 1 名</p> <p>希望進路については、生徒一人ひとりとの対話を大切にし、アドバイスを的確に行った。</p> <p>3年次生は希望進路の方向へ進んでいるが、1・2年次生はまだ何をすべきか考えられず、自身の進路に対しての意識が低い。</p>	

改善課題

- ・イエローカードは授業担当者と担任間の情報共有の手段として、うまく機能しているが、主な目的である生徒の学習状況改善や、生徒に危機感を感じさせ奮起を促すという点では、効果が見られない生徒もいる。また、イエローカードについては特定の生徒が複数の科目で指導を受ける傾向が強まっている。
- ・毎年、各年次生とも長期休業明けには頭髪服装違反生徒が見受けられる。
- ・多くの生徒において卒業後の進路を意識し始める時期が、3年次生の6・7月頃と遅いため、もっと早い時期からの指導が必要である。
- ・外国につながりがある生徒や課題を持つ生徒への、就職に向けた支援や手立てを早期から取り組む必要がある。
- ・各種検定の受検者数が少ない。商業、家庭など専門科目の授業を通じて受検への取り組みを行っている検定については受検者・合格者とも一定の人数が確保されているが、その他の検定については総じて受検意欲が低い。また、検定料が高額のため受検したくないという声も聞かれる。3年次生になってから履歴書に記載する検定が欲しいと慌てて受検し、準備不足のため不合格となるケースがまま見られる。
- ・部活動加入者の中には、名前だけで実際には活動していない生徒も少なくない。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信・学校活性化・地域貢献	<p>(1) 人権だより「ことだま」を発行し、人権に関する話題や情報を提供するとともに、学校での生徒の様子や学習内容等を伝え、家庭での話し合いのきっかけを作る。 【活動指標】 生徒及び保護者を対象として人権だより「ことだま」を発行する。 【成果指標】 生徒アンケートにおける「人権に対する理解を深め、人権尊重の行動へつなげる」数値の向上。</p> <p>(2) 地域や中学校への情報発信を効果的に行い、交流を進める中で教育活動の活性化を図る。 【活動指標】 地域や中学校からの学校理解が進み、学校の活性化や地域貢献につながるよう、情報提供を効果的に行う。 【成果指標】 地域アンケート(学校評価)で本校の教育活動の理解度が昨年度を上回る。</p>	<p>(1) 人権だより「ことだま」を4号発行した。 掲載内容を考え、読む人に見やすく言葉が届くように工夫した。 引き続き、「ことだま」の発行をしていきたい。 人権問題についての学習に対する前向きな回答が高い割合を占めている。学校生活に関しては、落ち着いた環境で周りの人と協力しながら安心して生活できているという回答が90%であった。</p> <p>(2) 5月から毎月1回以上、伊賀市・名張市・亀山市内の中学校や地元の地区市民センターを訪問し、学校PRポスターや教育活動等の新聞掲載記事の冊子、イベントチラシを持参し学校PRに努めている。地域交流では「黒豆特産品化」「地域の各種イベント」「美容出前授業」「地域コンサート」等に生徒たちが参加し地域貢献につながるようしている。</p>	
チームワークの向上・意欲の増進	<p>(1) 教職員のワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進する。 【活動指標】 定時退校日を原則として月1回以上設ける。年休取得を奨励する。部活動の休養日を週1回以上設ける。 【成果指標】 定時退校日の達成率90%以上。全教職員の年休取得日数10日以上。全部活動の週1回以上の休養日の設定。</p>	<p>(1) 定時退校日(17時退校日)を毎月1回設けて、ワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進している。定時退校日の平均達成率は76.4%である。年休取得平均日数(1月31日現在)は12.4日間である。(総務事務システムによって4月からのカウント日数)。全クラブが週1回以上の休養日を各々で設けている。</p>	

	<p>(2) 勤務時間の縮減に加えて、若い教職員が意見を言い、活躍できる機会を提供する。</p> <p>【活動指標】 学校マネジメント委員会から学校改善活動の提案を行う。</p> <p>【成果指標】 教職員の満足度調査（学校経営数値）の結果が昨年度を上回る。</p>	<p>(2)</p> <p>学校マネジメント委員会を20代、30代の教職員で構成し「職員清掃デー」等の取組を実施し学校改善活動を進めている。教職員の満足度調査（学校経営数値）の結果は昨年度58.3点に対して59.5点で上回った。</p>
--	---	--

改善課題

- ・人権だより「ことだま」の発行部数を増やすようにしていきたい。HRC 風等の情報をより発信していきたい。
- ・「お菓子作り交流」小学校3校「中学校出前授業」中学校3校で実施した。引き続き、情報発信や地域交流を行い、学校の活性化を図っていきたい。地域アンケートは後期に実施した。

5 学校関係者評価

<p>明らかに なった 改善課題と 次への 取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「少人数だからこそできるしっかりとした生徒との関わり」や「地域との連携」は本校の強みだと感じるので大事にしてほしい。 ・職員室前廊下に設置した机で学習する生徒がいることは、前向きで望ましい姿であるので継続してほしい。 ・テスト前補習や面接練習など、面倒見の良いていねいな指導が魅力的である。 ・運動部の部員数は少ないが、校内外合同で練習・試合をするなど活動を充実させる工夫をし、学校の活性につなげている。 ・遅刻は減少傾向にあるが依然として多く発生していることが課題である。それに対する取り組みとして、各学年次団と連携しクラス単位で基準を設けて指導することで成果を上げ始めている。
--	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動 についての 改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校則遵守についてより一層徹底していかなければならない。 ・早い時期から指導するという課題改善のため、あけぼの学園高校在学の3年間を継続的に見て、各年次生に必要な指導を練り、進めていく。 ・将来の就職・進学を見据えて、早期からの検定へのチャレンジや部活動加入をSHRや各教科を通じ、粘り強く勧めていきたい。また、保護者にも案内し、理解と協力を求める必要があるのではないかと。家庭訪問、PTA総会、保護者会など、教員が直接保護者と顔を合わせる機会を利用して呼びかけるのが効果的であると考えられる。
<p>学校運営 についての 改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権だより「ことだま」や人権LHRなどにより、人権意識を高めていきたい。HRC 風への参加を呼びかけていきたい。市民館訪問や地域の連絡会への参加等によりさらに情報交換を密に行う。 ・業務の効率化や連携協力体制づくりと併せて、取組を進めていきたい。 ・教職員が意識を持って活動できるように、縦のつながり、横のつながりを大切に業務を遂行していく。